
SSS




海だ！
She goes to See the Sea

3泊4日で海にやって来た。

シロウが言い出して色々と計画したらしい。
タイガが困ったように でも楽しそうに、あちこち駆け回っていた。

リンも『偶には羽目を外したっていいよね』と参加を表明。
サクラも『ライダーと一緒になら』と同行に同意。

きっとこういう事は、みんなでやった方が楽しいし。
これが切っ掛けで、もっとみんなと仲良くなれると思う。

泊まる所はタイガの家のものらしい。
プライベートビーチがあって、気兼ねなく遊べるそうだ。
海水浴場も近くにあって、そこの海の家のヤキソバが美味しいらしい。

楽しみだな。

とても楽しくなる、予感。





青い空
パァ
浜辺
ザザ
ザザ…
これが海かぁ…
ザ


ビーチバレー
海の家
スイカ割り


楽しかった～！
今日のが一般的な海水浴場よ
明日はプライベートビーチだから
貸しきり状態で遊べるわよ
へぇ～
それはそれで楽しそうだね
色々と驚くと思うけど
まぁすぐに慣れるわ
ふ～ん…？



まあ今晩は私たちの番ですから
衛士にはゆっくり休んでもらいましょう
スル
そうだねでも—
先輩には今頑張ってもらわないと
ニコ
先生は運転姉さんはイリヤさんのお相手—随分疲れてましたね
はは時間はあるからしっくりとな



ん…
はぁ
舌を絡める
キスって
ドキドキします
あ…
優しく
弄られてる
桜の胸
柔らかくて
触り心地いいよ
もみ
もみ
はぁ
はぁ
ああ
ライダーの舌が
ピチャ
ピチャ
桜のここ
可憐に淫靡に
濡れています
二人が
一緒に愛して
くれるから
ピチャ
すごく幸せで
気持ち良いです


桜…こういうのどう？
やぁ…乳首そんなにされたら
身体中熱く敏感になっちゃいます
はぁ
はぁ
はぁ
それでは桜クリトリスは？
ひぁっ！
はああああああっ！
ふふ 愛液が沢山出てきました



桜の愛液がどんな味?
味わいますか?
うん
こんな味ですよ
う…二人して何やってるんですか
ふむ 少ししょっぱいかなでも甘味と酸味も
あはは
は…恥ずかしい事言わないで下さい!
私だって!
うわっ!?
先輩を…味わっちゃいます♡
エヘへ


先輩のお尻可愛いです
んふ
ペロ ペロ
くっ…舌が中に入ってくる
桜の舌ってライダーより柔らかいのかもな
はっ はっ
ああ さくら 凄く 感じるよ
先輩気持ち良さそうで嬉しい
桜の方が貴方への想いが深いですから
行為も情熱的ですね
でも私も
ライダーの舌使いも凄い
くっ！
ん
（貴方の事は結構気に入ってるのですよ）




あっ ああっ！
で 出ちゃう
あ…ああああああっ!?
先輩がいきなり奥まで入れたから
お漏らし
しちゃったじゃないですかー
ゴメンゴメン お詫びに思いっ切りイカせるね
えっ
ああっ
こんなにされたらーっ
はっ
はっ
もう あっ


いやあああああっ!?
ビクッ
はっ
くっ…
凄い
締め付けだ…
ビクッ
ビクッ
はっ
ああああ
はっ
チュポン
よっ・
カバッ
士郎
こちらに
出してください
私の中に
零れないよう
一番奥で
よし
分かった


くぅっ……
ピュルルルルル
ビク
ビクッ
ええ…その調子です
ふぅ…出切ったかな
はあ
はあ
はあ
そうですね結構な量が入って来ました
それでは
桜…お待たせしました
どうぞ…
ヌリュ
ああ…クリトリスが刺激されながら
あ
あっ
精液が吸い出されるのがとても感じますね
チュッ
ジュルッ
チュッ
チュ
ん
精液吸ったら愛液もいっぱい出てきたよ


よいしょっ!
ポンッ!
前に負んでライダー
えっ!?
それっ!
な
何をする
ドププププププ
え・
はっ
はぁ
あああああああっ!?
あらっ
さっきのお返しだよ
最近ライダーはお尻がお気に入りだもんね♡
クチュッ
ジュブッ


いっ・・やあああああっ!!!
ヤアアアアア
ビクン
うわー ライダーが お漏らししてる
ぷる
ぷる
ぷる
はっ
はっ
ピクッ
ピクッ
ピク
大丈夫? ちょっと やり過ぎたかな
もう 無理矢理に イかせるなんて
二人とも 悪い子です
あはは♡
可愛かったよ ライダー


…ん～ ジュース飲み過ぎちゃった…
ん？ 何だろ
な… 何これ……っ？ そん・な・
みんな裸で…
やだっ…
いっぱい出たなぁ
ん？ どうしたライダー
いえ
何でもありません
私はもう少し桜を攻めようと思います
そうか じゃあ俺は少し休憩する



あれから
頭の中が真っ白のまま
部屋に戻り
意識を失ったかのように
ベッドに倒れ込み
気がつけば
いつの間にか
明け方だった
眠ったのか
眠ってないのかさえ
分からない
目の前で
行われていた
紛れも無い現実



前回のが、
サクラとライダーと。

セックスをしていた。

わたしだって、その行為は知っている。
性を持て余した魔術師、淫蕩まみれてる。

でも、あれは。
そんなものとは全く違う。

愛とか。
セックスと。

悲しくやわらかい。
ふたり肌の合う。
その行為を目の当たりにして、
わたしは鳥肌立っていた。
寒気が全身を走った。

みんな、わたしに見せた事のない顔をしてる。
イヤらしくて、それでいて幸せそうで楽しそうで。

──ふと思い出す事がある。
タイガ。

わたしがタイガの家でお世話になりだした頃、
タイガが一人でしていたのを見てしまった。
きっと誰も知らないのだろうと思わせるような、
切なげな表情だった。

わたしだって一人でした事がある。
リズやセラと抱き合った事もある。
じゃれあうように。

けれど。
前回の聖杯戦争のライダは、以前とは違っていた。
行為の優しさが、
セックスの品質を押し上げていたのだ。
ああ、気を知ったんだなー
その時はその理由の説明はなかった。
相手は同様なのかもしれない。
いずれ私とを比べてやろうと思ったのだった。

けれど、考えてみれば、
イリヤの家に通じて、一番可能性があるのは

「シロウ…なの？」



「ふあああ～～……何よりリアー随分早いじゃない」
この眠そうな声は、タイガの　と振り返り、目を疑う

「ねえタイガ」
「何よ」
「…何で、裸なの」

そう、タイガは、水着も、下着も、タオルで隠す事も無く

素っ裸だった。

「何でって…言ったじゃない、ここはプライベートビーチ「って」
いや　それは確かに言ってたけど。
「それなのに　水着なんて着る必要なんて無いじゃない？」

　そういうものだろうか
「そういうものかしら？」
「そういうものよ」
そういうものらしかった。

「ふあああ……何よ二人とも　随分早いじゃない」
タイガと同じように眠そうな調子でやって来たリンは、

同じように素っ裸だった。

「おはようございます大河、リンとイリヤスフィール」
一人すっきりとした調子のセイバーは

でもやっぱり素っ裸だった。

眠気は醒めた
と同時に、思考は止まった





ふと、リンとセイバーを見遣る
見慣れた二人の見慣れない姿は、新鮮だった。
タイガとは、以前から一緒にお風呂に入ってるんだっけ。

スレンダーで 無駄な肉が全く無いセイバー。
見るからに華奢で「最強」という称号とは全く無縁に見える。
胸元は、その身体に見合った、控えめの膨らみだった。
可愛いな、と素直に思った。

リンは、多分年齢相応の身体なのだろう。
適度に膨らんだ胸、女の子らしい丸み。
普段、ぜい肉がどうこう言ってる割に、細めな身体。
すごく、羨ましい。

タイガだって、私よりもずっと若くて可愛い
彼氏の一人や二人いたっておかしくないくらい

とか思ってたら、リンがいきなりな事を言い出した。
「ねえ、それも脱いじゃいなさいよ」
「な、何言ってるのよリン!」
「そうだそうだー脱げー」
「あんたは子供ですかタイガー」
「でも折角こういう機会ですから」
「…セイバーまでそういう事言うの?」

3対1…そして。

「おはようタイガ、みんな」
噂のシロウがやって来た。

その瞬間、自分の中で、全てがストンと繋がって落ちた。

「ねえシロウ」
わたしは言った。
タレパンツを下げて、
スカートをたくし上げながら。

「服…脱がせて」

シロウは一瞬キョトンとし、そして笑顔で頷いてくれた。




「わたしの初めて シロウにあげるね!」


ん
レロ…
クチュッ
クチュッ
んん
トロロ…
舌を絡ませるのすごいね―
えっちな感じで好き♡
ふに
ふに
おっぱいはどんな感じ?
ふに
ふに
くい
くい
くい
ひゃあっ く…くすぐったい
こっちは?
あん こっちは気持ちいいの
意外とエッチだな
そうだよ… 女なんだもん
スリ
スリ


クチュ
へえ 結構濡れてる
クチュッ
こっちはね 自分で触ったりするんだよ
そっか
指も割とスムーズに入るな
タイガの見様見真似で覚えたんだ♥
レロッ
ぺろぺろ
ヌプッ
ぬるっ
ぬるっ
藤ねえ 後でお仕置きだ
あはは♡
だからシロウ
遠慮なく
わたしの事抱いてね…♡


来て…
シロウが私を大人にしてくれるの
すごく嬉しいから…
ん…は…入ってきた
大丈夫?
ちょっと大きかったかな
うん…意外と平気だよ
ん
でもやっぱり血は出ちゃったか
そうだね…
はぁ
はぁ
はぁ
それでもシロウがしてくれたそれが嬉しいんだよ

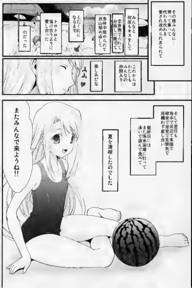

さわっ
あ これが初めての証なんだね
シロウ
舐めて
ん…
これがイリヤの味なんだな
キス しようよ
うん
シロウ 大好きだよ♡
俺もだよ イリヤ
あーシロウのが大きくなってきた
ピクッ
繋がれたのが嬉しくて気持ち良くなったからだよ
そっか わたしも嬉しいな♡
グググググ



出すよっ！
ビクッ
ジュッ
ジュッ
あ…
はあああああっ!!
はっ
はっ
はっ
出てる…
出てるよお・・
ドクッ
ドクッ
ドクッ


トロ～
ふぅ
溜ってたせいか
沢山出たな
はぁ
ビュービューって
5回くらい
お腹の奥に
出てるのが
分かったよ
はっ
はっ
はっ
はぁっ
えっ?
みんなの声が
何だか
ええっ!?


ああ 乳首いいよぉ
ちゅ
セイバーちゃんの ここは 本当可愛いわね♡
先生のだって 綺麗ですよ♡
凛のも 可憐で 惹かれます
ちゅ
ちゅ
みんな…… えっちだね
まあ こうなる事は 予想してたけどな
ねえシロウ わたし達も もっと…♡
了解！
はっ
はっ
あっ
あっ
あん



その後みんなに
寄って集って
代わる代わる
愛され攻められ弄られて
みんなと
何度もキスをして
全身撫でられて
お返しに撫でて
身体中舐められて
沢山舐め返して
くたくたに
なるまで
トロトロと
蕩け合うように
愛し合った
のだった
これからは
わたしも
みんなの
仲間入り
楽しみだな
ふふ♥
そして翌日も
海中で浜辺で木陰で
寝室で浴室で玄関先で
所構わず愛し合い
最終日には
また海水浴場に行って
泳いで遊んで食べて
夏を満喫したのでした
またみんなで来ようね!!


She goes to See the Sea
「シロウ
来年もまた
海に来たいな」

